

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870800505		
法人名	株式会社アヴィック		
事業所名	エクセレントホームなごみ		
所在地	茨城県龍ケ崎市川原代町875		
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果市町村受理日	平成31年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JizyosyoCd=0870800505-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2		
訪問調査日	平成30年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>建物が広々と設計されており、明るく清潔感があり落ち着いた生活を送って頂いております。利用者の「その人らしさ」を大切に生活ができるよう全職員が心掛けています。また、年間のイベント活動において利用者・御家族と一緒に参加、楽しめるよう職員一丸となって行っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>お洒落なペンション風の建物である。広々とした館内では、ゆったりとした生活リズムの中、利用者の『その人らしさ』を共有し、統一したケアの提供に努めている。『なごみ』というネーミング通り、やわらかな雰囲気の中で、居心地の良い家になる様取り組まれている。毎日、食事介助に通って下さる家族、週1回、利用者と外食に出かける家族など、協力的な家族が多い。今後も、更に家族と利用者の関係が継続できるよう、様々なイベントに家族を招待したり、必要品を届けてもらうなど、日常的に利用者と大切な時間を過ごしてもらえるよう支援していく。また、イベント開催時には地域住民にも参加を呼び掛けており、事業所や認知症に対する理解を得ている。外部・自己評価は自分たちを振り返る機会と捉え、全職員で自己評価を実施し、協力的であった。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、職員全員で基本理念を復唱し実践に繋がるよう職員全員共有している。また、新人職員においては入社時に理念について勉強会を行い理解してもらっている	地域密着型サービスの意義を踏まえた6つの理念を、玄関・事務所・各ユニットに掲示し意識付けを行っている。また、理念を申し送り時に唱和して共有し、実践に繋げている。管理者からも利用者の気持ちを大切にケアの提供をと伝え、職員は支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ボランティア来訪時、イベント開催時など、地域住民へ開催のお知らせと協力の呼びかけを行い交流の場を作るように取り組んでいる	ボランティア訪問(オカリナ・三味線・太鼓・歌・演奏・大正琴等)時やイベント開催(花火大会・芋ほり・バーベキュー大会・クリスマス会等)にはポスターを掲示したり、区長から回覧板を回してもらう。多数の地域住民の参加があり、利用者・家族と一緒に楽しいひと時を過ごしている。地域の夏祭りや市民会館の文化祭に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア来訪時、バーベキュー大会クリスマス会などを通して地域住民の方々への参加の場を作り、参加していただき、理解に努めている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議を通して色々な意見、アドバイスを1つ1つ丁寧に聞き、サービス向上に繋がるように職員間での共有を図っている	2か月ごとに家族・区長・民生委員・行政・事業所担当者の構成メンバーで開催している。議題は利用者状況・事業予定・報告等が主で、席上出た意見をサービス向上に活かしている。民生委員からの質問が多く出ている。全家族に案内状を出し、欠席の家族には議事録を請求書と一緒に送付。職員には会議等で報告している。会議を兼ねて夜間想定訓練を実施し、消防署からアドバイスを受けた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者との報告、連絡、相談を密に行うよう心がけている	関係担当課とは報告・連絡・相談を密に行い、協力関係を築いている。イベントにも参加してもらっている。こども110番に登録。中学生の体験学習を受け入れている。今後は認知症サポーター養成講座に講師として出向き、地域住民に理解をさらに深めたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1度、社内研修を行い全職員身体拘束について理解をしてもらっている。また、入社時にも身体拘束についての説明を行い理解してもらえるよう努めている	委員会を設置し、3か月ごとに社内研修を実施し、拘束となる行為・弊害は周知しており、利用者の安全・安心に向けたケアの提供に取り組んでいる。玄関は来客確認のためにセンサーを設置している。安全上、一時的に拘束となる場合の書類は整備している。今は何を望んでいるかを把握することで、利用者の混乱は無い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2度、社内研修を行い全職員虐待について理解をもらっている。また入社時にも虐待についての説明を行い理解してもらえるように努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度、社内研修を行い権利擁護に関する制度についての説明を行い全職員に理解できるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、不安や疑問がないか確認を行い、理解・納得が得られるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、御意見箱の設置、御家族の来訪時の聞き取りなど意見・要望が運営に反映できるよう努めている	利用者からは日々の会話の中で聞いている。意見の言い出しにくい家族に配慮して意見箱設置。第3者機関名と電話番号も明示しているが、そちらからの要望は皆無なので、今後はアンケートを検討中。面会時や電話連絡時に要望(Xmasの手伝い)を聞くようにしている。2か月ごとに『なごみだよりベストスマイル』(担当者が日々の様子を記入し、写真と一緒に送付)を発行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の面談を実施。意見や提案を聞く機会を設けている。また、相談に関しては随時聞く体制を整え対応している	現場の職員の気づきや提案はその都度検討し対応している。個人面談を実施して職員の思いを聞く。査定では職員の職業意識に基づいた昇給もあり、やりがいに繋がっている。外部研修受講後は伝達研修を行い、全職員で共有している。管理者と職員はお互いを仲間として認め合い、なんでも話せる関係で、ストレスや不満はないと職員から聞けた。新年会で親睦を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績、勤務状況の把握を行い年一度査定を行い給与の引き上げに努め、個々のやりがいや向上心に繋がるよう外部研修への参加の促しや資格手当など職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や月1回の内部研修を行い介護職に必要な知識の向上に繋がるように努め実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じての情報交換やネットワークづくりを行いサービス向上に繋がるように努めている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、入所時に御本人様への聞き取りを行い安心して過ごせるよう努めている。また、入所後においてもなじみの関係が築けるよう全職員が努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入社時・入所後、御家族が来訪時には、声をかけ、困っていること・不安なこと・要望等と言える関係作りをするよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が一番必要か傾聴し、支援できるよう職員との話し合いを設け対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を中心に昔ながらの食事作りや行事などを教えてもらっている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの行事への参加を積極的に行って頂いて、また、御家族の面会時 利用者様の様子を必ず伝え、ゆっくりと過ごして頂けるように心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の訪問や、電話での会話など馴染みの関係が途切れないよう支援している	電話や手紙で遠方の親族や友人、知人などの馴染みの人との関係継続に努めている。お墓参り・居酒屋・美容院・外食・外泊などの馴染みの場所へは家族と一緒に掛けている。新聞購読や乳酸飲料の購入を続けている利用者がある。遠方の孫が泊まりに来るのを楽しみにしている利用者がある。餃子が食べたいという要望があり、届けてもらったり、みんなで手作りする時もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人でいる利用者がいれば必ず職員が声をかけを行い、自然な流れで利用者同士が関われるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望があればいつでも相談に応じられることを説明している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の希望を傾聴することを心掛け、希望に沿った暮らし方ができるよう職員と話し合い、検討している	利用者の思いや希望を言える環境整備に努め、言葉かけに注意をしている。一日のリズムは業務優先ではなく、利用者優先で流れている。趣味(編み物・縫物・畑仕事仕事等)の継続や家事等でやりがいに繋げている。困難な場合は本人の表情や様子、家族から聞き、本人本位で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、入居後家族の協力のもと馴染みの生活環境に近づけるよう努力をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌、ケース記録等での一日の流れを全職員が把握できるよう工夫を行っている 趣味やお手伝いなどで有する力の発揮ができるよう働きかけを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員への意見も取り入れる介護計画作成を心掛けている	利用者や家族から意見・要望を聞き、カンファレンスで担当者が主となり、ニーズとケアのあり方について話し合って現況に即したプランを作成している。作成後は家族に説明し、同意を得ている。プランと連動したケアの提供内容を記録に残し、月1回のミーティングでモニタリングを実施し、評価に繋げている。状況変化に応じて現況に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回のミーティング時にモニタリングを行い職員間での情報共有を行い実践・見直し等を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援ができるよう、御家族様との連絡を密にとりサービスの多機能化に取り組みができるように管理者、職員が話し合いを行い取り組みに努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる歌や楽器の演奏会 消防による避難訓練、地域主催の祭りなどの参加を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度かかりつけ医が来訪される急変時にも対応していただき、適切な治療が受けられるよう支援している。	協力医療機関(脳神経外科・循環器科)から月2回の往診があり、体調管理に努めている。朝の挨拶の時には利用者の変化に特に注意し、顔色や表情を観察する。異変を感じた場合は家族に連絡し、受診して往診記録や介護支援経過記録に記録する。専門医は家族付き添い受診し報告を受けている。家族に連絡した内容は利用者・家族の覚え書きノートに記録が残されていることが確認された。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当医の訪問診療に限らず、日々の変化や気づき、情報等を伝え適切な受診が受けられるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院時担当者への情報の提供や情報交換、利用者との定期的な面会を行い情報を得ることに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に当施設の指針を説明した上で希望を伺い、できるだけ沿うように取り組んでる	前回の評価を受け訪看と協議中である。職員は看取りの研修を受講し、心構えは出来ている。体制が整えば看取り体制も可能となっているが、現在は、契約時に説明し交わしている緊急対応希望書に沿う取り組みを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に一度救命講習会を消防署職員へ依頼、応急手当、初期対応等の訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、水害訓練、図上訓練等を行い利用者が避難できるよう訓練を行っている	前回の評価を受け、交通事故対応マニュアルを作成し全職員で共有した。様々な災害を想定した訓練を区長・民生委員と一緒に実施し、スムーズに避難できる体制となっている。過去の訓練を通して消防署から指導(声の大きさ・サンダル履き・避難場所の確認等)をもらい改善している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月一回ミーティングを行い個々の利用者に対して話し合い人格の尊重・誇り・プライバシーの確保に繋がるよう対応している	人生の先輩として尊敬し、声掛けには配慮をしている。書類は事務所に保管。情報開示に関する同意書を取り交わし、個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	開かれた質問を行うことができる様に、社内研修を行い、御本人様の思いや希望を言える環境作りを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで過ごせるよう御本人への声掛けを行い、御本人様の希望に添えるよう支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時の着替え等は御本人様が選べるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる事は積極的に参加してもらい、準備・片付け等を行っている	利用者の希望を聞き、一週間ごとに季節の食材を取り入れたメニューを管理者が考え、冷凍食品を配達(ご飯・汁物は調理)してもらい、利用者の状態に応じた形態で提供している。利用者は力量に合わせて、下準備・下膳・食器洗い・拭き等を手伝う。職員も同じテーブルを囲み、食欲や誤嚥に注意をしながら、会話と笑いのある楽しい食事であった。イベント食・外食・おやつ作りは利用者の楽しみとなっている。誕生日会でファミリーレストランに出かけている利用者がいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の確認を書類等に残し、全職員が把握できるようにし適切な支援が出来るように対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っていただき、御本人の力に応じた口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立維持に向けた支援を行っている	排泄チェック表・パターン・表情・様子から声掛けを行いトイレに誘導しトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。夜間常おむつ対応の利用者も昼間はトイレに誘導している。水分・ラジオ体操・リハビリ体操・運動・散歩・食材等で自然排便に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の好みを把握し1日に必要な水分摂取量を管理し、ラジオ体操・リハビリ体操、廊下歩行など一日を通し負担にならない範囲で予防に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決まった入浴日はあるが、御本人様の希望があった際には柔軟に対応できるよう支援を行っている	入浴日はおおむね決まっているが、家族や利用者から、希望場あれば柔軟に対応している。季節のゆず湯・しょうぶ湯には普段よりリラックスしている様子が見れる。皮膚感染防止のため足ふきマットは個人毎に取り替えている。着替えの準備は職員と一緒にやっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具類の調整・交換・布団干し・布団乾燥などこまめに行い、気持ちよく睡眠がとれるよう心掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニットに薬の説明書を置き、全職員が把握できるよう努めている。また、服薬マニュアルをもとに服薬支援に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の支度、洗濯物、カラオケ、飾り物の作成、庭の整備、畑の収穫など個々の利用者が気分転換に繋がるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材等の買い出しや日曜日に外出し、職員と一緒に外食などを行い希望に添えるよう支援している	天気・体調に合わせて、車いすの利用者も散歩・ドライブ・野菜の収穫・中庭で草木を眺めたりして、季節の移ろいを感じてもらっている。イベントとして牛久シャトーで食事会、弁当持参で牛久大仏、チューリップ見学等以外に週1回の買い出しやオレンジカフェ・初詣・地元のフェスティバルにでかけている。家族と一緒に居酒屋・寿司屋に出かける利用者がいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	力量に応じて小銭程度のお金を所持し、買い物に行った際に、洋服や化粧品おやつなどを購入している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人様の希望があった際には電話をかけ自由にやり取りができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい空間作りに心掛け、季節にあった飾り物や花、湿度、温度の管理等を行い、不快や混乱が起こらないように共有空間を作るように努めている	広々とした中庭はきれいに整備され、利用者が手入れしたプランターの花が玄関や坪庭をきれいに飾っている。玄関には職員の写真と名前が掲示されており、当日の勤務職員の名札を表示しているので家族は話しやすいとの事。ゆったりとしたリビングは暖かく、夫々が好きな和室やソファでゆっくり過ごしている。玄関先のベンチで庭になっているミカンを食べる利用者がいた。家族から提供されたカラオケセットは楽しみの一つとなっている。玄関ホールや各ユニットに飾られたクリスマス飾りでもうすぐ開催されるXmas会の雰囲気を高めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、玄関ホール、和室、リビング、食堂など利用者が気の合った利用者同士で過ごしまた、一人で過ごしたいときにも過ごせる環境作りも行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、入居後家族の協力のもと馴染みの生活環境に近づけるよう家具や人形、椅子やテーブルなどを持ってきてもらえるようにしている	居室入り口に名前と写真を表示し混乱防止に努めている。車いす対応の利用者には、クローゼットにカーテンをかけ、使いやすく工夫している。ベッド・冷蔵庫・ロッカー・クローゼットを設置しているので、大きな家具等の持ち込みはないが、テレビ・カーペット・椅子・棚を動線に支障が無いように配置されている。家族の写真・趣味の本(園芸・料理・週刊誌等)・見やすい時計・お花・作品等を飾り、居心地よく過ごせる居室となっている。掃除は職員と一緒におこなっている。加湿器を設置し乾燥防止に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりの設置、居室内も、利用者に合わせ危険のないよう工夫をしている		

(別紙4(2))

事業所名: エクセレントホーム なごみ

目標達成計画

作成日: 平成 31 年 1 月 9 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	風水害のマニュアルを作成しているが、福祉避難所の確認が取れていないので、行政に問い合わせ、職員や家族にも周知することが望ましい。	風水害により避難を要する状況が発生した場合、当ホーム入居者及び職員が速やかに移動し、混乱なく避難所にて過ごせるよう、行政に福祉避難所を確認する。そして確認が取れ次第、関係者へ周知を図っていく。	龍ヶ崎市役所へ確認したところ、福祉避難所は、「松葉コミュニティセンター」との回答を受け、当ホームで挙げていた3ヶ所の避難所を松葉コミュニティセンターへ統一。その結果を踏まえて職員へ周知し、入居者家族には手紙にてお知らせした。	1ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。